

青少年相談員会報

令和元年9月15日発行

第89号

さ き が け

発行 水戸市青少年相談員連絡協議会（事務局 水戸市教育委員会事務局教育部生涯学習課 ☎029-306-8692）



水戸黄門まつり

ひとつの学説による類推を愉しむ

水戸市青少年相談員連絡協議会

会長 立川 力



青少年相談員、改めて見ると大変なことかと思う。「青年期なると、人が理解されたいという強い要求を持つ」。その特徴は、自己の内的世界にひたり、人間への憧憬さえも自己の好みから発する反抗的な独立性である。そうかと言って大きな精神的援助が不必要ということにはならない。「青年の心理」（シユプランガー著）。その援助とは、「訓練可能な技能や知識だけではなく、思慮深さ、直観、情念、そしてタクト（人間味）豊かな受容力といった能力が求められる」。「体験」がものを言うということか。

体験といっても私自身、その時期の記憶は断片的にしてほんのわずか蘇るだけ。これでは「体験」は役立たない。記憶の「隠蔽」が私にもあった証明は、青年期が存在したことか。少し嬉しい。はてさてどうしたらよいだろう。「一人の人間を理解することは、その人がある程度はつきりした輪郭を取った時初めて可能になる」（同著）。街頭での補導はそんな悠長なことは言って居れない。「いわゆる子ども」の想像は、事物（体験）との対話であり、青年の想像は、事物へのモノローグ（心のさげび）である。（同著）。瞬時に、子どもには、私の記憶に残る体験で、青年には、記憶に薄い体験をもとに「心の叫び」を聞き取らなければならぬのだろう。何れにしても、大人の、想像（おもいやる心）するちから持ち、常に青少年に「過干渉や放任」にならず、教育的な関りを持ちつづけたいものです。

【事業計画】

実施時期	事業名
5月	定期総会
	第1回役員会
7月	第2回役員会
	各地区情報交換会及び研修会(市共催事業)
9月	第3回役員会
	会報「さきがけ」89号発行
11月	青少年相談員視察研修会(市共催事業)
	第4回役員会
1月	第5回役員会
2月	青少年相談員実務研修会(市共催事業)
	各地区情報交換会及び研修会(市共催事業)
3月	会報「さきがけ」90号発行
	第6回役員会

定期総会

5月26日、水戸市役所に於いて開催され、総会に先立ち、青少年相談員感謝状贈呈式と委嘱状交付式が行われました。贈呈者13名の中には、30年間勤められた方もおられました。

青少年相談員連絡協議会の立川力会長に続き、水戸市教育委員会の本多清峰教育長、水戸警察署生活安全課の亀丸建吾課長より挨拶をいただきました。相談員の日頃の活動に感謝し、これからも、学校・家庭・地域が、青少年の健全育成の為に、力を合わせて活動しなければと話されました。



続く議事では、事業報告、会計報告、事業計画、予算案が審議され、滞りなく進行し、総会が閉会となりました。(齊藤)

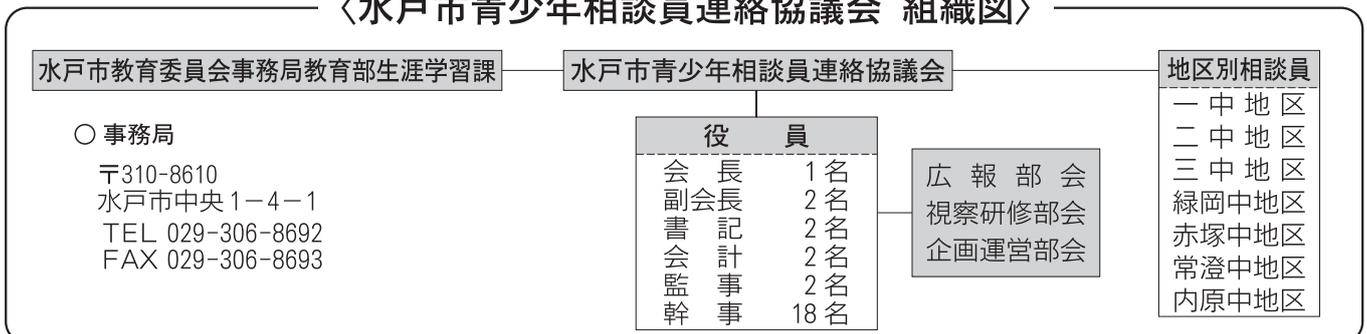
令和元年度水戸市青少年相談員連絡協議会役員名簿

(順不同・敬称略)

役職名	地区	部会	氏名	所属	役職名	地区	部会	氏名	所属
会長	内原中		立川 力	民間有志	幹事	三中	地区長	田寺 克年	民間有志
副会長	三中		白田 茂司	民間有志	幹事	三中	副	福田 清江	民間有志
副会長	三中		萩谷 ふみ江	民間有志	幹事	三中	副	広報	副部長 小 塚 明 美
監事	緑岡中		岡崎 充 芳	民間有志	幹事	緑岡中	地区長	研修	茂 垣 恵 美 子
監事	緑岡中		松下 恵 子	民間有志	幹事	緑岡中	副	広報	竹 林 雅 子
書記	常澄中		片岡 清 義	民間有志	幹事	緑岡中	副	企画	岩 間 幸 一
書記	一中		増子 正 子	民間有志	幹事	赤塚中	地区長	企画	部長 大 森 ま す み
会計	赤塚中		大森 ますみ	民間有志	幹事	赤塚中	副	広報	部長 齊 藤 陽 子
会計	内原中		宮本 明 美	民間有志	幹事	赤塚中		企画	鯉 渕 伸 子
					幹事	赤塚中		研修	桑 名 美 治 子
幹事	一中	地区長	川島 隆	水戸西ライオンズクラブ	幹事	常澄中	地区長	研修	部長 片 岡 清 義
幹事	一中	副	飯村 かほる	民生委員児童委員	幹事	常澄中	副	企画	尾 崎 盾
幹事	一中	副	増子 正 子	民間有志	幹事	常澄中	副	広報	生 井 沢 康 代
幹事	二中	地区長	齋藤 直 哉	二中学区青少年育成会	幹事	内原中	地区長	企画	副部長 宮 本 明 美
幹事	二中	副	鈴木 弘 美	民間有志	幹事	内原中	副	研修	浅 井 聡
幹事	二中	副	池田 清 美	民生委員児童委員	幹事	内原中		広報	栗 林 エ ミ 子

※ 企画運営部会……8名 広報部会……7名 視察研修部会……7名

〈水戸市青少年相談員連絡協議会 組織図〉



水戸市教育委員会事務局教育部生涯学習課

水戸市青少年相談員連絡協議会

地区別相談員

○事務局

〒310-8610
水戸市中央1-4-1
TEL 029-306-8692
FAX 029-306-8693

役員

会 長 1名
副 会 長 2名
書 記 2名
会 計 2名
監 事 2名
幹 事 18名

広 報 部 会
視 察 研 修 部 会
企 画 運 営 部 会

一中地区
二中地区
三中地区
緑岡中地区
赤塚中地区
常澄中地区
内原中地区

令和元年度

地区定例会及び研修会

一中地区 川島 隆

今回、縁がありまして青少年相談員水戸一中学区の地区長を務めさせて頂く事になりました、川島隆と申します。

私は、これまでの3年以上の経験を通じて、子どもたちの新たな道を切り開くという意味からも、我々から積極的な「声掛け」がきわめて重要だと認識しております。活動する諸先輩方をはじめとする同志と共に、微力ながら地区長の務めを果たせるよう頑張ります。

二中地区 齋藤 直哉

二中地区の第1回定例会及び研修会を、7月24日に学校関係16名中6名、関係団体10名中4名、民間有志6名中3名と市職員で開催しました。

普段は補導の時間が異なるなど顔を合わせる事が少ない面々で、子どもたちの活躍の場を設けて認める励ます、「青少年の健全育成に協力する店」の依頼訪問時間を早くしてはどうか、来年度の会の

開催は黄門まつりの後にしましゅうなどの意見交換が行われました。

参加人数は、この3年間で最多ですが更に増えるように関係者と協力が必要と感じました。

三中・常澄中地区

田寺 克年

7月18日、山城屋におきまして三中地区・常澄中地区合同の地区定例会及び懇親会を行いました。今回、各地区のPTAの方々にも

お声掛けをし、定例会総勢29名、懇親会総勢21名で盛大に行う事が出来ました。普段の相談員活動を行うに当たり、時間帯によって様子が異なる点、様々な立場に立つての青少年との関わりの違いを、参加者全員の方々に一人ずつお話を頂く事で、視野の広がる大変有意義な会となりました。今後、地域・学校との連携を更に深め青少年活動の輪を広めたいと思います。

緑岡中地区

茂垣 惠美子

7月26日に17名の参加を頂き地

区定例会を開催しました。初顔合わせの為、自己紹介・地区や中央補導の際に気づいたことや問題点など各々に話をされ、特に各学校の先生方からは、児童生徒の様子などもお話し頂きました。

特に心配される大きな問題などはありませんでしたが、共通していたのは、大人も勿論ですが、「子どもたちの自転車の走行マナーが悪く困っている。」と地域の方から連絡があるとのことでした。学校だけにお任せするのではなく、地域では特に自転車の危険行為やその他の迷惑行為などを見かけたら、声を掛けられる大人でありたいと改めて感じました。「地域の大人達は、いつも視ているよ。」とメッセージにして。参加してくださった皆さんありがとうございました。

赤塚中地区

大森 ますみ

7月25日、上中妻市民センターにて定例会を開催しました。赤塚中地区はいつも出席率が良く、情報交換として街頭補導ではなかなか出会えない子どもたちの様子を先生方から聞く事ができました。

その中で、「実害はなかったが不審者がいたためパトロールを強化した。」「登校班でふざけて車に

接触した。」など、タイミングによっては事故故になりかねない事に冷や汗が出ました。

目に見えないトラブルとして、SNSやオンラインゲームでのいじめなど、私達には防ぎようのない事にも考えさせられました。

内原中地区

宮本 明美

梅雨も明け暑さが厳しくなった7月30日、内原市民センターで行われた今年度初回の地区定例会は、出席者9名で情報交換をしました。

子育てからは時間が経ち、自らの子ども時代の記憶も薄れ始めた年齢になり、先生方からの学校での子どもたちの様子は、新鮮で興味を引きました。現代の子どもたちは大人が間に



には大人が間に問題解決が苦手であること、手であること、聞き、情報があふれている現代社会で、直接ふれあえる我々は、子どもたちに寄り添っていかうと思えました。

相談員になって思う事



青少年相談員になって

常澄中地区 服部 理恵

初めての活動は6月初旬の中央補導。新任研修前ということもあり、どのような活動をするのかと緊張しながらの参加でした。

先輩方に話を伺いながら水戸駅周辺を歩くうち、子どもたちが好んで集う場所をあまりにも自分が知らないことに気付かされました。駅周辺の狭い範囲だけでも大人の目が届きにくい場所が

数多くあることに驚くと同時に、このような場所でも時間を過ごす子どもたちの心境について考えるきっかけともなりました。高校生の我が子と話をすると、



危険に対する感覚が大人と大きく違うことも感じます。微力ながら青少年の健全な環境づくりのお手伝いができればと思っています。

青少年相談員として

二中地区 高須 淑子

青少年相談員になって2年目になります。街頭補導や情報交換会に参加して気付いたことは、「子どもたちは、地域の人々に見守られている。」ということ。街頭補導では、駅ビルなどでたまに中高生を見かけます。「どうしたかな。」と思う時には、一緒に歩いていた相談員の方は、さりげなく声をかけています。お互いにこやかに話している様子を見て、こうして子どもたちの健全な生活を見守っているのだと思いました。

また、情報交換会で様々な情報や考えを共有する中で、どのように子どもたちを見守っていったらよいか、学ぶことができました。子どもたちのために、安心・安全な環境を作っていくことができます。ありがたいなと思っています。

”社会を” 明るくする運動

日頃より、安全なまちづくりと健全な青少年の育成を目指している団体が協力して犯罪や非行防止、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動で7月は強調月間です。

7月17日、水戸駅にて街頭キャンペーン、啓発品の配布。

また、関連事業として6月22日水戸駅、「ダメ。ゼッタイ。普及運動」薬物乱用防止キャンペーンを笠原中、第四中の生徒たちといっしょに通勤、通学の人に呼びかけをしました。7月11日水戸駅、「未成年者喫煙防止街頭キャンペーン」にも参加しました。



(齊藤)

事務局職員紹介

事務局職員について、令和元年度は次のとおりです。

水戸市教育委員会事務局教育部生涯学習課	課長	野澤 昌永
	副参事兼課長補佐	山田 規生
	青少年育成係長	鎌田 洸一
	担当	岡崎 壮汰

〒310-8610 水戸市中央1-4-1
水戸市役所 3階
電話：029-306-8692 (直通)
FAX：029-306-8693
Eメール：seisyounen@city.mito.lg.jp

編集後記

9月28日から、「いきいき茨城ゆめ国体」「いきいき茨城ゆめ大会」が開催されます。前回の茨城での開催は、45年前の昭和49年。相談員の皆さんも覚えていらっしゃる方は、多くいらっしゃる事でしょう。

茨城県の観光スポットは？おみやげは？お勧めのお店は？県外からのお客様が、茨城県を好きになっ
てくれるよう精一杯おもてなししたいものです。

同時に、国体が未来ある子どもたちの心に残るよう、応援・ボランティアなどに参加して、国体を盛り上げて行きたいですね。(小塚)